

上下水道の持続へ各協会が総会

異形管テキストに新章追加

ダク異形管工業会

人材育成へ研修会実施



村瀬会長

日本ダクスタイル異形管工業会（会長＝村瀬充・村瀬鉄工所社長）は12日、都内で第59回定時総会を開いた。令和元年度

事業計画・予算などを決めた。役員改選を行い、村瀬会長、犬塚宣明・副会長（幡豆工業社長）以下、常任理事、監事、専務理事らをすべて留任した。

冒頭、村瀬会長は「日本水道協会の検査実績数量をみると、水道用铸铁異形管のピークは1998年で約12万8800トンだったが、2018年度は、その3分の1となっている。平成は大きな震災があり、水道もかなり被害を受けたが、これを契機に需要も伸びると期待したが、需要の減退に歯止めがかかっている」と分析。今後について「水道法が改正され、

官と民が一緒になって効率良く更新を進めていくという方向に向いている。これから、若干右肩上がりになるのでは」と期待を述べた。

今年度事業では、会員各社における品質管理活動の充実に向け、新たに標準書を制定し、周知を図る。平成29年度に制定した異形管テキストの充実をめざし、粉体塗装や安全管理、5S改善などの章を新たに追加する。異形管現場用語集についても用語を約100単語

追加していく。会員の依頼があれば、モノづくりに関する出前講座も実施していく。JIS G5527（ダクスタイル铸铁異形管）、JISWAS G1（下水道用ダクスタイル铸铁管）およびG2などの改正に対応する。技術委員会研修会も来年2月に大阪・東京会場で開催する。

また、会員の人材育成に向けた研修会を新たな取り組みとして行う。7月にトヨタ産業技術記念館で機械の動態展示と多彩な実演を体験して、モノづくりの大切さを学んでもらうことにしている。